

総務常任委員会視察 ② 福岡県久留米市 2017.5.9

町田市議会議員 総務常任委員 吉田つとむ
産業及び観光の振興について

- (1) 久留米まち旅博覧会について
- (2) 久留米スタイルによる一貫した支援（産業支援）について



- (1) 久留米まち旅博覧会について
<概要>

以下は、配布資料やその説明からピックアップしました。

久留米市の考えは、交流人口の拡大による地域活性化、地域イメージの向上・場ランド化に取り組む観点で、『久留米全体の地域資源の発掘』⇒着地型体験旅行商品『久留米まち旅博覧会』の実施を入れています。これは、体験交流型観光プログラム（通称：「まち旅」）とされています。

久留米の資源 キラーコンテンツはないが、自然、文化・伝統、食文化、医療、ものづくりなど「磨けば光る」地域資源がある。⇒まだ観光資源とは認知されていない。



<評価について>

自然と言うと、九州一の筑後川が流れており、水天宮にちなむ企画は拡大可能だろうと思います。

文化・伝統では餅（かすり）の産業が発展しており、一時は衰退したが、新たな観点で見直されるものでしょう。

食文化では、ラーメンは博多にらず久留米が豚骨ラーメンの発祥であり、まだまだ、全国ブランドにアップできる可能性があります。焼き鳥を食べることが好まれ、その対人比消費量が日本一とされますが、B級グルメが一般化した今日、まだまだ対外的に交流のチャンスはあろうというものです。

医療では、久留米大学が公衆衛生学分野で卓越しており、そのすそ野が広がればそれまた全国から人を集めることができるのではないのでしょうか。

話が後になりましたが、久留米と言えば、ゴム産業の街、世界トップブランドのブリジストンの発祥の地であり、今も基幹工場として現存しています。さらには、ズック（スニーカー）の名門企業があり、そのトップブランドへの復活は可能なことだろうと思います。走ることをはじめとするスポーツに縁が深い事業が起きておかしくないと思います。

久留米には、全国唯一、陸上自衛隊の幹部候補生学校があります。自衛隊の訓練メニューも人気ようで、新たな社会情勢に合わせたものでしょう。自衛隊自体がそうした取り組みを無限に拡張することは困難でしょうが、NPO的な組織でも可能ではないか、かつ、需要が多いのではないかと考えました。

翻って、久留米市は町田市と似通った様相をした街となっています。久留米で取り組まれた<久留米まち旅博覧会>と言う着地体験型観光の施策は、町田にも比定すべき事柄が多いと思いました。

（2）久留米スタイルによる一貫した支援（産業支援）について

<概要>

久留米市において、産業支援の形態は順次変化しており、以下のように分類されています。

・始動期(1980年から2000年代初頭)

久留米・鳥栖テクノポリス構想としてスタート。久留米リサーチ・パークが整備、1989年リサーチセンタービルが完成。

2001年、福岡バイオバレープロジェクトがスタート。2003年福岡バイオインキュベーションセンターが2003年に竣工。創薬のための基盤整備を進める。

・活動実践期 2005年頃から

2007年に「福岡バイオファクトリー」が竣工。同年までに、バイオベンチャー60社が設立された。地場の筑邦銀行が人的、資金、事業投資のアドバイスを行う。行政は、「バイオベンチャー研究開発大賞」を導入し表彰する。

・事業化期 2010年以降

福岡バイオプロジェクトの成果、製品化112件、創業128社、久留米市内に40社のバイオ企業が集積。大企業にライセンスアウトするもの、大学発ベンチャー企業が上場する事例が出る。

- ・がんペプチドワクチン
- ・核酸医薬分野（ボナック核酸）
という分野で目途がついている。



<評価について>



新規雇用につながっていることが特徴と言われる。

久留米市は、県内でバイオ産業に展望を置き、その分野の企業が成長している。

久留米リサーチ・パークのインキュベーションセンターの入居率は100%に達している。

課題は福岡県工業統計で、全国平均に比べて一人当たりの給与が85.5%しかないことと、1人当たりの付加価値額が全国平均の70.54%しかないことが課題となっているとされており、新規産業の爆発的な成長が期待される場所となっている。



それらを一挙に解消したり、あるいは平均レベルに持ち上げることは困難だ

ろうが、バイオに特化したインキュベーション施設の在り方は学ぶべき点だろ
う。